



バレーボールは、誰にボールを託すかが勝敗の鍵を握る。その一翼を担う「アウトサイドヒッター(OH)」は攻守の両面で活躍が期待される存在だ。男子のネーションズリーグに参戦中の日本代表17人のうち、OHは主将の石川祐希(25=ミラノ)ら5人が登録されている。注目プレーヤーたちを紹介する。

【取材・構成=平山連】

# これが日本が誇るOHだ

**実績・経験 10**

**福浪達哉** 24歳 187cm 88kg  
【最高到達点】355cm

【生年月日】1986年(昭61)7月1日  
【出身地】京都市  
【学歴】京都・洛南→中大

【福浪メモ】オホジツ清水邦広と並んで現代表候補の中では最年長になる経験豊富なベテラン。08年北京で1勝もできなかった悔しさをバネに、15-16シーズンにブラジル、19-20と20-21シーズンにフランスでプレーするなど海外でも研さんを積んでいる。口癖は「VAMOS」。妻と4人の娘があり、プレー以外の特技は子育て

【主な実績】08年北京五輪代表、09年アジア選手権「最優秀選手賞」、09年ワールドグランドチャンピオンズカップ「ベストスパイカー賞」、11-12Vプレミアリーグ MVP・ベスト6など

【高橋メモ】代表候補の中では最年少ながら、国際試合2連戦と紅白試合で大きくアピールした。全ての試合で先発出場を果たした。攻撃面だけではなく、持ち味のレシーブ力を発揮してライバルたちとの違いを見せている

【高橋メモ】今季のVリーグではチームのエースとして502点を挙げ、西田、清水に次ぐ日本人3位の得点をマーク。中国との国際親善試合でデビューを飾り、第1戦では途中出場ながらチーム3位の10得点を挙げて逆転勝利に貢献した。その後の試合でも強烈なサーブやスパイクで存在感を放っている

【大塚メモ】招集されている大学生2人のうちの1人。指揮官も認める堅実なプレーを披露しながら、194cmの高さを生かして迫力のあるバックアタックなど強気な攻めを見せている

**実績・経験 9**

**石川祐希** 25歳 191cm 84kg  
【最高到達点】357cm

【生年月日】1995年(平7)12月11日  
【出身地】愛知・岡崎市  
【学歴】愛知・星城→中大

【石川メモ】言わずと知れた日本の若きエース。中大在学中から世界最高峰のイタリア・セリエAで武者修行し、卒業後はプロの道を選び3季目の今季は念願の初タイトルを手にした。常々口にする「世界トッププレーヤーになる」目標に向けて、一歩一歩階段を上っている

【主な実績】17年アジア選手権 MVP、19年ワールドカップ「セカンドベストアウトサイドスパイカー賞」、20-21 ICE Vチャレンジカップ(優勝)

**実績・経験 7**

**高梨健太** 24歳 189cm 78kg  
【最高到達点】337cm

【生年月日】1997年(平9)3月25日  
【出身地】山形市  
【学歴】山形城北→日体大

【高梨メモ】今季のVリーグではチームのエースとして502点を挙げ、西田、清水に次ぐ日本人3位の得点をマーク。中国との国際親善試合でデビューを飾り、第1戦では途中出場ながらチーム3位の10得点を挙げて逆転勝利に貢献した。その後の試合でも強烈なサーブやスパイクで存在感を放っている

【主な実績】15,16年 U-21 代表 19年ユニバーシアード代表

**実績・経験 9**

**高橋 藍** 19歳 188cm 72kg  
【最高到達点】343cm

【生年月日】2001年(平13)9月2日  
【出身地】京都市  
【学歴】京都・東山→日体大(在学中)

【高橋メモ】代表候補の中では最年少ながら、国際試合2連戦と紅白試合で大きくアピールした。全ての試合で先発出場を果たした。攻撃面だけではなく、持ち味のレシーブ力を発揮してライバルたちとの違いを見せている

【主な実績】20年春高バレー-MVP

**実績・経験 9**

**大塚達宣** 20歳 194cm 80kg  
【最高到達点】338cm

【生年月日】2000年(平12)11月5日  
【出身地】大阪・枚方市  
【学歴】京都・洛南→早大(在学中)

【大塚メモ】招集されている大学生2人のうちの1人。指揮官も認める堅実なプレーを披露しながら、194cmの高さを生かして迫力のあるバックアタックなど強気な攻めを見せている

**実績・経験 10**

**石川祐希** 25歳 191cm 84kg  
【最高到達点】357cm

【生年月日】1995年(平7)12月11日  
【出身地】愛知・岡崎市  
【学歴】愛知・星城→中大

【石川メモ】言わずと知れた日本の若きエース。中大在学中から世界最高峰のイタリア・セリエAで武者修行し、卒業後はプロの道を選び3季目の今季は念願の初タイトルを手にした。常々口にする「世界トッププレーヤーになる」目標に向けて、一歩一歩階段を上っている

【主な実績】17年アジア選手権 MVP、19年ワールドカップ「セカンドベストアウトサイドスパイカー賞」、20-21 ICE Vチャレンジカップ(優勝)

あと  
**44**  
日  
2020年7  
**7:20開会式**  
東京パラリンピック 7/6日

写真は日本バレーボール協会提供

写真提供:日本バレーボール協会